

コミュニケーション学研究科の学位授与の方針(ディプロマポリシー)及び教育課程の編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)について

1. 建学の精神

東京経済大学大学院は、大倉商業学校創立者大倉喜八郎の「進一層」の心に代表される良き伝統を体して、日本国内外に生起する現代的諸問題の解決に資するべく、広い視野の下に各分野における専門知識と理論、情報の収集・分析・活用能力、的確な表現能力を体得し、かつ社会的倫理を尊重する堅実な専門的職業人や、真摯な研究者の育成を目的と定め、その実現のために教育と研究を誠実に遂行することをもって建学の精神とする。

2. コミュニケーション学研究科・専攻等の教育研究理念

コミュニケーション学研究科は、社会を成立・維持させる上で必須のコミュニケーション活動の重要性に鑑み、我が国初の当該学問の高等教育機関として設立された。本研究科は、コミュニケーションに関する高度な理論、知識に基づいて、多様な領域で活動する専門家、研究者を養成する。

3. コミュニケーション学研究科・専攻等の教育研究目的

コミュニケーション学研究科コミュニケーション学専攻は、対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションなど複雑多岐にわたるコミュニケーション現象を対象に、問題を発見し、それを解決するための理論や分析力・調査力を備え、コミュニケーション活動に関わる分野で活躍できる優れた人材、優れた研究者の養成を目的とする。修士課程及び博士後期課程については次のとおりとする。

(1) 修士課程

メディア社会領域

社会におけるメディアの役割を探求する理論を研究するとともに実証的調査方法・資料収集方法や高い論理性に依拠する分析方法を教授する。講義や研究指導を通じて各自の研究課題を明確化・深化させ、基礎的な研究能力を有し現代のメディア社会を鋭く分析できる人材を養成する。

ネットワークコミュニケーション領域

多数の人がインターネットなどのコンピュータを介在させたコミュニケーションを利用する時代となった現代社会に焦点を当て、その影響や課題について、基礎から応用まで幅広く学ぶことを目的とする。

企業コミュニケーション領域

現代社会における重要なコミュニケーションの主体である企業・行政等の組織体によるコミュニケーションの実態を分析すると共に組織体の内外に対する統合的なコミュニケーション戦略の構築についてその枠組を考察する。

文化研究領域

現代文化はメディアと密接な関係にあり、またグローバルな広がりをもったものとして存在する。そのような対象を研究するため、社会学やカルチュラルスタディーズなどの分析方法、主要な概念などを学ぶことを第一の目的とする。

ジャーナリズム研究領域

政治、経済、社会などにおいて、ジャーナリズムは多大な影響力がある。このようなジャーナリズムの形成過程や、その受容状況の考察を通して、現代ジャーナリズムの実態を明らかにするとともに、今日的課題の把握できる人材の育成に努める。

(2) 博士後期課程

コミュニケーション分野について、研究者として自立した研究科活動を行い、又は高度に専門的な業務に従事するために必要な、研究能力及びその基礎となる精深かつ豊かな学識を培い、大学や研究機関及び官公庁、企業等での研究的業務を担える研究者を養成することを目的とする。

4．コミュニケーション学研究科・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

コミュニケーション学研究科は前述の5つの領域を基礎に、高度情報社会におけるITを基軸としたネットワーク社会の機能や課題を体得し、企業や行政等の組織体のコミュニケーション戦略の構築力を養う。また、社会学やカルチュラルスタディーズなどの分析手法を備え、メディア情報の形成過程と今日的課題を把握できる人材を育成する。博士後期課程は、これらの素地の上に立ち、豊かな学識を備えた研究者を育成する。所定の能力を得た者には、以下の方針で学位を授与する。

（1）修士課程

大学院に2年以上在学し、所定の授業科目について36単位以上を修得することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

（2）博士後期課程

大学院に5年（修士課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、所定の授業科目について34単位（博士後期課程における特別講義4単位を含む）以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者については、大学院に3年（修士課程2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

5．コミュニケーション学研究科・教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

（1）修士課程

5つの研究領域の専門科目、調査・研究方法科目、インターンシップ科目及び個別研究指導科目が構成されている。

（2）博士後期課程

個別研究指導とメディア・コミュニケーション研究領域とメディア・文化研究領域のそれぞれの特別講義からなる。